

「専攻科の教育に関する調査」の分析と考察

内野 智仁 武林 靖浩 橋本 時浩

全国の聾学校に設置された専攻科の実情を明らかにするため、橋本（2014）による「専攻科の教育に関する調査」の集計結果を基に、「生徒数」「県外からの入学者」「資格取得や検定試験の受験状況」「進路と学科の内容との関連」「進路先」「職場体験実習と学科の内容との関連」に焦点を当てて、それぞれ地域区分、学科領域毎に分類した。その結果、地域、学科、分野に応じた専攻科教育の特徴や傾向が明らかになった。

【キーワード】 専攻科 全国調査 地域区分 学科領域

1 はじめに

平成 26 年 4 月現在、我が国において専攻科を設置している「特別支援学校（聴覚）及び聾学校」（以下、聾学校と表記する）は全国に 37 校ある。専攻科は、職業に関する専門の知識・技能を習得させ、生徒の就労を支援する課程として大切な役割を担っているが、全国の聾学校に設置された専攻科が実際にどのような状況にあるのかについて、詳細は明らかにされていない。

橋本（2014）は、全国の専攻科を設置する聾学校 37 校に対して「専攻科の教育に関する調査」を実施し、聾学校 33 校（本科職業科 65 学科、専攻科 63 学科）の回答内容をまとめた。表 1 に示す質問項目（以下、Q と表記する）について、回答数や回答内容、自由記入の内容などを集計し、全国の聾学校の状況について報告した。その一方で、回答した聾学校全体の傾向を捉えることを目的としていたため、専攻科教育の特徴を示す質問項目に焦点を当てた分析は行われていなかった。

2 研究目的

本研究は、全国の専攻科教育の実情を明らかにすることを目的として、「専攻科の教育に関する調査」の集計データを基に、専攻科教育の特徴を示す「生徒数」「県外からの入学者」「資格取得や検定試験の受験状況」「進路と学科の内容との関連」「進路先」「職場体験実習と学科の内容との関連」の項目に焦

点を当てて分析を行った。具体的には、上記項目について、「学校の所在地による地域区分（以下、地域区分と表記する）」と「学科の教育内容に関する領域（以下、学科領域と表記する）」で分類し、集計した結果をまとめた。表 2 は、分析対象となる 76 の学科・コースの分布を、地域区分と学科領域でまとめた結果である。

表 1 「専攻科の教育に関する調査」の調査項目

Q1	学校の基本情報
	記載した先生の名前、役職、所属 専攻科を担当する教員の人数等(学校単位)
Q2	高等部本科に在籍する生徒
Q2(1)	本科の普通科、職業科の生徒数(学科単位)
Q2(2)	本科卒業後の進路(学科単位)
Q2(3)	自校専攻科に進学しない場合の進路(学科単位・複数回答)
Q3	専攻科に在籍する生徒
Q3(1)	生徒数(学科単位)
Q3(2)	県外からの入学者(学科単位)
Q3(3)	資格取得や検定試験の受験状況(学科単位)
Q3(4)	進路と学科の内容との関連(学科単位)
Q3(5)	進路先(学科単位・複数回答)
Q3(6)	就職に必要な能力(学校単位・選択肢から2つ)
Q4	職場体験実習やインターンシップ
Q4(1)	期間(学校単位)
Q4(2)	学科の内容との関連(学科単位)
Q4(3)	実習の受け入れ先(学校単位・複数回答)
Q4(4)	実習の内容(学校単位・複数回答)
Q4(5)	実習で重視していること(学校単位・選択肢から2つ)
Q5	専攻科の教育の在り方
Q5(1)	各学校の課題(学校単位・複数回答)
Q5(2)	Q5(1)の補足説明(学校単位・自由記述)
Q5(3)	専攻科教育のよさや意義(学校単位・選択肢から2つ)
Q5(4)	今後の専攻科の教育に必要なことや改善点 (学校単位・自由記述)

表 2 学科・コースの地域区分と学科領域

	工業系	商業系	家政系	美術・デザイン系	理・美容系	複合系	普通科	歯科技工科
北海道	0	0	0	0	0	1	0	0
東北	4	1	1	0	1	1	0	0
関東	2	3	2	3	3	1	0	1
中部	7	1	2	1	2	3	1	0
近畿	4	1	2	0	2	3	1	0
中国	1	0	0	0	1	1	0	0
四国	1	0	0	0	2	0	0	0
九州	3	1	1	1	7	3	0	0
合計	22	7	8	5	18	13	2	1

3 分析方法

「専攻科の教育に関する調査」の集計データについて、地域区分として、次の 8 地域に分類して集計を行った。

「北海道」「東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）」「関東（東京、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川）」「中部（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）」「近畿（京都、大阪、三重、滋賀、兵庫、奈良、和歌山）」「中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）」「四国（徳島、香川、愛媛、高知）」「九州（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）」

同調査に回答した聾学校 33 校の地域区分による内訳は、北海道 1 校、東北地方 3 校、関東地方 6 校、中部地方 8 校、近畿地方 5 校、中国地方 2 校、四国地方 3 校、九州地方 5 校であった。

また学科領域として、「理・美容科」「歯科技工科」「工業系（材料加工・製作、機械等）」「商業系（ビジネス、情報処理等）」「家政系（被服、食物等）」「美

術・デザイン系（窯業等を含む）」「複合系（2 つ以上の性質を有する学科）」「普通科」の 8 領域による分類を行い、集計を行った。

4 分析結果

専攻科教育の特徴を示す「生徒数」「県外からの入学者」「資格取得や検定試験の受験状況」「進路と学科の内容との関連」「進路先」「職場体験実習と学科の内容との関連」の項目、表 1 における Q3(1)～Q3(5)、Q4(2)について分析を行った。

Q3 では、専攻科に在籍している生徒に関する実情を明らかにするための調査項目が設定されている。

Q3(1)は、専攻科に在籍する生徒数について、学科・コース毎に回答する形式となっている。

回答が得られた 33 校の専攻科では、生徒 167 名が在籍している。表 3 は地域区分、表 4 は学科領域について、それぞれ生徒数及び割合をまとめた結果である。生徒数として、関東地方、中部地方、九州地方の上位 3 地域だけで全体の約 82%を占めていることが分かった。また、四国地方については、専攻科を設置する聾学校 3 校に生徒がいないという結果であった。

また、学科領域では、工業系が 41 名と最も多く、その内訳として産業工芸科などの材料加工・製作に関する学科が 32 名、機械科などの機械に関する学科が 9 名という結果であった。

表 3 地域区分による専攻科の生徒数

	人数（人）	割合
北海道	6	3.6%
東北	6	3.6%
関東	69	41.3%
中部	46	27.5%
近畿	16	9.6%
中国	2	1.2%
四国	0	0%
九州	22	13.2%
合計	167	100%

表4 学科領域による専攻科の生徒数

	人数(人)	割合
工業系	41	24.6%
商業系	31	18.6%
家政系	18	10.8%
美術・デザイン系	13	7.8%
理・美容科	15	9.0%
複合系	16	9.6%
普通科	11	6.6%
歯科技工科	22	13.2%
合計	167	100%

表5 県外からの入学者(地域区分)

	いる(学校)	いる(学科)
北海道	0	0
東北	1	1
関東	2	4
中部	1	4
近畿	2	2
中国	1	1
四国	0	0
九州	0	0
合計	7	12

表6 県外からの入学者(学科領域)

	いる(学科)
工業系	3
商業系	2
家政系	2
美術・デザイン系	1
理・美容系	1
複合系	1
普通科	1
歯科技工科	1
合計	12

Q3(2)は、県外からの入学者の有無について学科・コース毎に回答する形式となっている。

県外からの入学者については、全国7校の聾学校

における12学科・コースで受け入れ実績があるという回答であった。表5は、県外からの入学者がいる地域区分毎の学校数と学科・コース数の分布を表した結果である。北海道、四国地方、九州地方を除いた5つの地域では、県外からの入学者がいるという回答であった。表6は、受け入れ実績のある12学科について、学科領域で分類した結果である。工業系の学科が最も多く、8領域いずれも県外からの入学者の受け入れ実績があるという回答であった。

Q3(3)は、専攻科の各学科で取得を目指している資格や検定試験について、学科・コース毎に回答する形式となっている。

集計した結果、42種類の資格や検定試験について回答があった。表7は、それらを9分野「理・美容系」「歯科技工系」「工業系」「商業系」「家政系」「デザイン系」「福祉系」「一般教養」「その他」に分類し、回答数と共にまとめた結果である。

各分野で最も回答数が多かった資格は、「理・美容系」で理容師国家試験受験資格、「歯科技工系」で歯科技工士国家試験受験資格、「工業系」で基礎・機械製図検定とアーク溶接・ガス溶接技術講習、「商業系」で情報処理検定、「家政系」で高等学校家庭科被服製作技術検定、「デザイン系」でレタリング技能検定、「福祉系」で介護職員初任者研修修了資格、「一般教養」で漢字能力検定という結果であった。

Q3(4)は、専攻科修了後の生徒が、在籍した学科・コースの教育内容と、どのくらい関連のある進路に進んでいるのか回答する形式となっている。回答者は、学科・コース毎に、次のア～オから適当なものを選択した。

ア. ほぼ全員が関連する仕事に就いている

イ. 4分の3以上が関連する仕事に就いている

ウ. ほぼ半数が関連する仕事に就いている

エ. 4分の1以上が関連する仕事に就いている

オ. 関連する仕事に就いているのは4分の1未満

表8と表9は、教育内容と進路の関連について、地域区分と学科領域、それぞれの分類でまとめた結果である。

「ア. ほぼ全員が関連する仕事に就いている」の

表 7 専攻科で取得を目指している資格及び検定試験

分野	資格名称	回答数	分野	資格名称	回答数
理・美容系	理容師国家試験受験資格	16	家政系	高等学校家庭科被服製作技術検定	9
	美容師国家試験受験資格	2		高等学校家庭科食物調理技術検定	7
歯科技工系	歯科技工士国家試験受験資格	1		食生活アドバイザー検定	2
工業系	基礎・機械製図検定	6		調理師資格	2
	アーク溶接・ガス溶接技術講習	6		ファッションビジネス能力検定	2
	CAD 検定	4	デザイン系	レタリング技能検定	3
	計算技術検定	3		色彩検定	2
	旋盤技能検定	2		illustrator クリエイター能力認定試験	1
	危険物取り扱い者試験	2		photoshop クリエイター能力認定試験	1
	情報技術検定	1		Web クリエイター能力認定試験	1
商業系	情報処理検定	19		トレース技能検定	1
	ビジネス文書実務検定	18	福祉系	グラフィックデザイン検定	1
	日本語ワープロ検定	8		C G クリエイター検定	1
	簿記能力検定・簿記実務検定	6	一般教養	介護職員初任者研修修了資格	5
	パソコン検定	4		高等学校家庭科保育技術検定	1
	珠算・電卓実務検定	4	その他	漢字能力検定	8
	Word,Excel(Office 関連)検定	3		実用英語技能検定	4
	計算実務能力検定	1		実用数学技能検定	2
	コンピュータ会計能力検定	1		日本語コミュニケーション検定	1
	C 言語プログラミング能力認定試験	1	その他	秘書技能検定	1
	ビジネス著作権検定	1		自動車免許	1

表 8 学科・コースと進路の関係（地域区分）

	ア	イ	ウ	エ	オ
北海道	0	1	0	0	0
東北	0	0	1	0	1
関東	8	2	0	1	5
中部	3	0	2	2	8
近畿	4	2	0	1	2
中国	0	1	0	0	2
四国	1	0	0	0	1
九州	4	2	2	0	5
合計	20	8	5	4	24

回答数が 20 学科、「オ. 関連する仕事に就いているのは 4 分の 1 未満」の回答数が 24 学科と、教育内容が生徒の進路に関連する場合と関連しにくい場合

表 9 学科・コースと進路の関係（学科領域）

	ア	イ	ウ	エ	オ
工業系	6	0	2	2	7
商業系	4	0	2	0	0
家政系	2	1	0	1	3
美術・デザイン系	0	0	0	0	5
理・美容系	4	5	0	1	5
複合系	3	2	1	0	3
普通科	0	0	0	0	1
歯科技工科	1	0	0	0	0
合計	20	8	5	4	24

の両方に多くの回答が集まった。そこで学科・コースの教育内容が、生徒の進路に関連している地域や学科領域について明らかにするため、「ア. ほぼ全員

が関連する仕事に就いている」の回答を調査した。

地域区分では関東地方の 8 学科、学科領域では工業系の 6 学科が最も多かった。このときの関東地方 8 学科の内訳は、工業系で 2 学科、商業系で 3 学科、家政系で 2 学科、歯科技工科で 1 学科という結果であった。工業系 6 学科の内訳は、関東地方で 2 学科、中部地方で 1 学科、近畿地方で 2 学科、四国地方で 1 学科という結果であった。

また、「ア. ほぼ全員が関連する仕事に就いている」と「イ. 4 分の 3 以上が関連する仕事に就いている」の合計値で見ると、関東地方が 10 学科、理・美容系が 9 学科と最も多い回答数であった。

学科・コースの教育内容が、生徒の進路に関連しにくい地域や学科領域を明らかにするために、「オ. 関連する仕事に就いているのは 4 分の 1 未満」の回答数を調査した。その結果、最も多かった地域区分と学科領域を調べると、中部地方の 8 学科、工業系の 7 学科という結果であった。中部地方 8 学科の内訳は、工業系で 2 学科、家政系で 1 学科、美術・デザイン系で 1 学科、理・美容系で 1 学科、複合系で 2 学科、普通科で 1 学科という結果であった。工業系 7 学科の内訳は、東北地方 1 学科、中部地方 2 学科、近畿地方 1 学科、中国地方 1 学科、九州地方 2 学科であった。

そして「オ. 関連する仕事に就いているのは 4 分の 1 未満」の回答がなかった工業系の学科・コースを有する地域は関東地方（2 学科）と四国地方（1 学科）があり、それらの回答内容を調べてみたところ、いずれも「ア. ほぼ全員が関連する仕事に就いている」という回答であった。

Q3(5)は、専攻科生徒の進路先について回答する形式となっている。回答者は、学科・コース毎に、次のア～オから適当なものを 1 つ以上選択した。また「オ. その他」の回答者には自由記入欄への回答を求めた。

- ア. 製造
- イ. 事務系
- ウ. 技能系（デザイン等）
- エ. 進学
- オ. その他

表 10 と表 11 は、生徒の進路先について、地域区

表 10 専攻科生徒の進路先（地域区分）

	製造	事務系	技能系	進学	その他
北海道	1	1	1	1	1
東北	5	2	1	2	3
関東	7	8	3	2	6
中部	14	3	5	0	1
近畿	10	3	3	1	0
中国	2	0	0	0	3
四国	1	1	0	0	2
九州	9	2	4	0	2
合計	49	20	17	6	18

表 11 専攻科生徒の進路先（学科領域）

	製造	事務系	技能系	進学	その他
工業系	19	2	1	1	3
商業系	5	4	1	1	0
家政系	4	2	1	0	4
美術・デザイン系	3	3	1	1	2
理・美容系	8	3	9	0	4
複合系	8	5	4	2	4
普通科	2	1	0	1	0
歯科技工科	0	0	0	0	1
合計	49	20	17	6	18

分と学科領域、それぞれの分類でまとめた結果である。進路先として「ア. 製造」の回答が 49 学科で最も多く地域区分としては中部地方の 14 学科、学科領域としては工業系の 19 学科が最多の回答数であった。「ア. 製造」の回答をした中部地方 14 学科の内訳は、工業系で 6 学科、商業系で 1 学科、家政系で 1 学科、美術・デザイン系で 1 学科、理・美容系で 1 学科、複合系で 3 学科、普通科で 1 学科という結果であった。また、「ア. 製造」の回答をした工業系 19 学科の内訳は、東北地方で 4 学科、関東地方で 1 学科、中部地方で 6 学科、近畿地方で 3 学科、中国地方で 1 学科、四国地方で 1 学科、九州地方で 3 学科という結果であった。

20 学科が選択した「イ. 事務系」の回答については、関東地方の 8 学科、複合系の 5 学科がそれぞれ

最多の回答数であった。関東地方 8 学科の内訳は、商業系で 1 学科、家政系で 1 学科、美術・デザイン系で 3 学科、理・美容系で 3 学科という結果であった。また、「イ. 事務系」の回答をした複合系の 5 学科の内訳は、北海道 1 学科、東北地方 1 学科、中部地方 2 学科、近畿地方 1 学科という結果であった。

17 学科が選択した「ウ. 技能系（デザイン等）」の回答については、中部地方の 5 学科、理・美容系の 9 学科がそれぞれ最多の回答数であった。

「エ. 進学」については、6 学科で回答があった。また、「オ. その他」の回答内容について、無記入を除くと、能力開発校が 2 学科、食品、軽作業、歯科技工、サービス、清掃、介護、小売、理容がそれぞれ 1 学科ずつ、回答があった。

Q4 では、職場体験実習やインターンシップの実施に関する実情を明らかにするための調査項目が設定されている。

Q4(2)は、学科・コースの教育内容と職場体験実習先に関連があるかについて回答する形式となっている。回答者は、学科・コース毎に、次のア～エから適当なものを 1 つ以上選択した。

- ア. 関連がある
- イ. どちらかと言えば関連がある
- ウ. どちらかと言えば関連がない
- エ. 関連がない

表 12 と表 13 は、教育内容と職場体験実習先に関連があるかについて、地域区分と学科領域、それぞれの分類でまとめた結果である。

職場体験実習先について、教育内容と「ア. 関連がある」と回答した 28 学科が最も多く、地域区分では九州地方の 9 学科、学科領域では理・美容系の 12 学科がそれぞれ最多の回答数であった。また、「ア. 関連がある」と「イ. どちらかと言えば関連がある」の合計値で見ると、九州地方が 16 学科、理・美容系が 16 学科と最も多い回答数であった。

一方で、職場体験実習先と教育内容が「エ. 関連がない」と回答した学科は 3 学科あり、「ウ. どちらかと言えば関連がない」の合計値では、13 学科が回答したことが分かった。また、学科領域での商業系と歯科技工科については、「ウ. どちらかと言えば

表 12 教育内容と職場体験実習先の関連（地域区分）

	ア	イ	ウ	エ
北海道	1	0	0	0
東北	1	1	2	0
関東	7	5	1	1
中部	3	8	3	0
近畿	4	4	2	1
中国	1	0	2	0
四国	2	0	0	1
九州	9	7	0	0
合計	28	25	10	3

表 13 教育内容と職場体験実習先の関連（学科領域）

	ア	イ	ウ	エ
工業系	5	7	3	1
商業系	4	2	0	0
家政系	1	5	2	0
美術・デザイン系	0	2	2	1
理・美容系	12	4	0	1
複合系	5	4	2	0
普通科	0	1	1	0
歯科技工科	1	0	0	0
合計	28	25	10	3

関連がない」「エ. 関連がない」と回答をした学科はなかった。

5 まとめと今後の課題

専攻科の「生徒数」「県外からの入学者」「資格取得や検定試験の受験状況」「進路と学科の内容との関連」「進路先」「職場体験実習と学科の内容との関連」について、地域区分と学科領域毎に集計した。その結果、地域や学科、分野毎に特徴が明らかになった。

今後は本結果を踏まえ、地域や学科毎の特色及び課題をより明確化するための調査を行う必要がある。

〔参考文献〕

橋本時浩（2014）「専攻科の教育に関する調査」の報告 ―現状と課題―. 聴覚障害秋号, 759, 40-45.